

■ 「人権を確かめあう日」 記念集会

稲川淳二さんの講演

「要らない命は一つもない」

4月27日にならまちセンターで開催された「人権を確かめあう日」記念集会では、タレントとしてもご活躍されている稲川淳二さんの講演があり、テレビでしかお目にかかっていない稲川さんの印象と、私生活で悩みを抱えておられる姿とのギャップの大きさに驚くとともに、その講演は聞いている私の心を強く打ちました。

稲川さんのご息は、クルーズン氏症候群という難病を患われ、稲川さんはその小さな命と向き合い、苦悩しながら家族を守り続けてこられました。そんなご自身の体験を語りながら、「要らない命は一つもない」という話をしてくださいました。本当に命の大切さと向きあわせていただいた講演でした。



「人権を確かめあう日」 記念集会

講演の中には、印象的な話がたくさんあったのですが、その中に一つ、このような話がありました。

あるときご息の病気のことで、奥様から公費負担の医療制度があると言われ、役所へその申請に行かれたそうです。その時、申請の窓口でうまく説明ができなくて戸惑っていると、係の人から「お金をもらいに来たのでしょうか。」といった主旨の心ない言葉を言われたと話されました。

この話を聞いて、私は稲川さんがどれほど悔しい思いをされたらろうかと思いました。また、この話を聞いている時に「私たちの日常にも、こんな事はないだろうか」と、置き換えて考えました。相手の立場に立って考えることのできる思いやりは、どんな場面においても必要だと思います。

学校現場においても同じような場面があるのではないのでしょうか。例えば、保護者が学校に何か意見をされたとします。その意見を、保護者や子どもの立場に立ち、受け止め、話を聞いてみてください。何かその保護者はお困りになっているはずなのです。稲川さんの話を聞きながら、そんな事が大事なのだらうと思いました。

「要らない命は一つもない」という言葉でこの記念集会は締めくくられましたが、私にとって本当に「一人一人の人権を、感性豊かにとらえ直したい」と思う日になりました。

■ 学校ビジョン

奈良市教育ビジョンを具現化する学校ビジョン

毎年、年度初めの校園長会では『学校ビジョン』の話をしています。

校園長の皆さんに作成をお願いしている『学校ビジョン』は、学校の向こう3年間程度を見通した中期の計画だと考えてください。

『学校ビジョン』の位置付けは、次のようになります。

- ◆まず、国の教育の方向性として学習指導要領や幼稚園教育要領、策定途中である第 2 期教育振興基本計画の方針があります。

- ◆これらを踏まえて、奈良市教育ビジョンがあります。奈良市教育ビジョンは、今、後期計画に向けて見直しをしています。

- ◆学校ビジョンは、その奈良市教育ビジョンの具体化を、それぞれの学校で進めていくためにあるものです。それは 1 年で達成できるものではありませんので、3 年間程度の中期計画として作成してもらっています。

- ◆その学校ビジョンに基づいて、単年度の重点目標や取組があります。



奈良市教育ビジョン「めざす子ども像」

私は、毎年、全ての学校ビジョンに目を通してはいますが、中には、前年度の内容とあまり変化のないビジョンがあります。確かに、学校が取り組む教育の方向性というものは、毎年毎年変わるものではありません。また、校園長が転勤すると、ビジョンが大きく変わってしまうというものでもありません。昨年度の課題を踏まえ、目標を実現していくために、今年度、重点的に取り組む内容や校園長先生方の思いや熱意、意気込みを込めた学校ビジョンを作成してほしいと思います。校園長のリーダーシップをしっかりと発揮し、教職員とともに作成する学校ビジョンをお願いします。

学校ビジョンを作成するうえで大切にしたいこと

1. 「めざす子ども像」について議論する

一つめはいつもお話していることですが、校園長の皆さんのリーダーシップのもと、各学校園の先生方と、「どんな子ども像をめざすのか」という議論を重ねながら作ってほしいということです。「不易と流行」という言葉のとおり、物事には変わらないものもあれば、変わっていかねばならないものもあるはずで、この議論があつて、学校ビジョンが全教職員の共通のものになりうると思います。学校ビジョンが単なるペーパーであつてはならないのです。



2. 実態や到達目標・手立て・評価指標を示す

二つめは、単なるペーパーで終わらないように、子どもの実態と到達目標、そこへ至るまでの手立て、そしてその取組をどう評価するのか、つまり、子どもの実態と到達目標、具体的な手立て、評価指標を議論し、明確に示すということです。これがないと、「子どもの目がキラキラ、イキイキしている」という抽象的な表現だけのペーパーで終わってしまいます。

3. 分かりやすく示す

三つめは、学校ビジョンをどのように分かりやすく示すかということです。分かりやすく示すということは、実に難しいことだと思います。難しいことを専門用語を使って話すのは簡単ですが、平易な言葉で言うことは、容易ではありません。というのは、本当に深く知っていなければ、なかなか分かりやすく言うことはできないからです。



佐保幼稚園（ビジョン）

奈良国立博物館学芸部長の西山厚先生は「3歳の子にも正倉院の話や大仏を造った人の思いを理解させることができる。」とおっしゃいます。それは、その本質を本当に深く知っておられるからです。だから、平易な言葉で、小さい子どもからお年寄りにまで誰にでも分かるように話すことができるのです。

皆さんも一緒だろうと思います。学校の姿や子どもの姿、めざす子ども像や学校ビジョンについて議論を深め、より具体的な姿をイメージすることができていれば、分かりやすい言葉で書くことができるはずです。このビジョンは、学校の教職員が共有するだけでなく、ビジョンを見られた保護者や地域の方が「学校はこんな子どもを、こんな取組で育てようとしているのだ。」「こんな協力を求めているのだ。」ということが分かるようなものであることが大切です。そのためにも、教職員と議論を深めたものを出してほしいと思います。そういった意味では、同じ学校園での勤務が1年目よりも2年目、2年目よりも3年目の方がより深く地域や学校を知ることになりますので、より分かりやすい学校ビジョンになるのだろうと思います。

■ おわりに

昨年度より一歩でも進化した学校ビジョンにさせていただき、それぞれの学校ビジョンがペーパービジョンになってしまわずに、教職員一人一人の心の中に入り込み、具体的な実践をともなった、生きた学校ビジョンとなっていくよう、集中した議論をお願いします。熱い議論と熱意の伝わってくる、そんな学校ビジョンを期待しています。